専門知と教養知

2022年3月1日

於：豊田工業大学

村上　陽一郎

専門知が成立する以前では

ヨーロッパの大学では

神学・医学・法学を除いては

基本は教養知の涵養が教育目的であった

大学付属の上級学校としての　神学校・医学校・法学校

vocation　神からの呼びかけ（vocal）と

profession　それに応じた約束の表明（profess）

ギリシャ的な　＜paedeia＞　教養ある市民としての基礎

ラテン的な　＜humanitas＞　人間としての基礎

専門的学知の出現

19世紀ドイツの大学

Humboldt-Universitaet zu Berlin（1810）

＜Wissenschaftsideologie＞　専門的学知の追求

象牙の塔　　＜Fach＞＝専門的学科

＜Fachidiot＞の出現　Ein Mann von Fach

知的人間としての基礎は　大学予備門である中等教育へ

＜Gymnasium＞

<lycee>（仏）　＜public school＞（英）が近い

技術に関しても

18世紀末から19世紀に　artisan　に代る　engineer

- フランスでの　エコール・ポリテクニーク
- アメリカにおける　土地付き学校（land-grant colleges）
  農学校、工学校、農工学校など　　学位授与権はない
- イギリスの mechanical school
- 日本の工部大学校
  及び各種高等専門学校
  水産　農林　獣医　薬学　医学　歯学　法律　商業
  鉱山　土木　繊維

＜～ist＞の誕生

philosoph+er　law+yer　farm+er
physic+ian　theolog+ian
compos+er　music+ian

scient+ist　physic+ist　botan+ist　zoolog+ist
sociolog+ist　physiolog+ist　pharmac+ist
agricultur+ist
flut+ist　pian+ist

専門化は　些末化か

compartmentalization

理念　　狭く　しかし　深く

制度　　論文　レフェリー　IF　peer-review

仲間内だけの営み

どちらも　他者の介在を許さない

単なる好事家ではいられない

専門知が　社会の中で　善かれ悪しかれ
　　巨大な「力」を持つに至った

ex.　　原子力　　生命科学

　　社会的セクターが　＜exploit＞する
　　ELSI　Ethical, Legal and Societal Issues

ELSI は誰が処理するか

生命科学におけるアシロマ・ガイドライン

① 専門知的レヴェル
物理的封じ込め　P1~P4　（現在は　BSL-1~4）
生物学的封じ込め　in vitro　でのみ　成育可能

② 非専門知的レヴェル
IRB　メンバーの内　「仲間」の数は半数未満
（非専門家の判断の介入を是とする）

医療における専門知

医師の権利

　死亡の認知　　疾病・治療の裁量権

患者の裁量権

　IC（informed consent から　informed choice　へ）

空間の権威勾配　フラット化へ

権威勾配

フラットではない場面

　医療

　教育

　コックピット

これらにおいて　フラット化すべきか

新しい試み　TA　から　CC　へ

コンセンサス会議（CC）

1985年　デンマークで　TAの一種として開発された

TA＝technology assessment

米では　1972年OTA（Office)を連邦政府に

主として　未来予測　と　<EW>early warning

一時期　廃れる

1990年代　PTAという形で再評価

CCとは

運営部門＋専門家パネル＋市民パネル

課題の設定　専門家の選出　市民の選出
市民集団は　説明を受けた後　質問票の制定
専門家集団　との会合を重ねる

デンマークでは　議会のvoteと同じだけの比重で
　為政者は考慮すべき　との原則も

日本では

裁判員制度　lay-judge system
　重大な犯罪を扱う刑事審

　本来司法の場は　被告を除くすべての参加者が
　　司法試験に合格した専門家で構成される
　市民的常識（非専門家による）を反映する必要性

　　最初の事例　2009年8月3日　の東京地裁

専門家と非専門家の相互乗り入れ

lay-expert の出現

米　AIDS患者グループ（ACT UP）

Laurence Kramer(1935~2020）映画脚本家を中心に

1987年

Lesbian and Gay Community Services Center, NY で発足

AIDS Coalition to Unleash Power

SCの必要性

science communicator

専門グループと　非専門グループの　橋渡し役

- 従来の科学ジャーナリズムは　一方向

PA(public acceptance)を目指す

- 双方向性もった橋渡し

PU（public understanding）を目指す

Science for All Americans

Science for all Japanese 「科学技術の智」ラボ

北原和夫